

FMC

健全な生育をしっかりと守る。

すいか、メロンを ずっしり美しくしあげる

薬剤のかかりにくい葉裏に潜む害虫にも、高い効果！

極微量の経口取り込みで、害虫の加害を即停止。3~4週間の長期残効。

散布方法



1

2g (1株分)の薬剤を
量り、株元に均一に散
布します。



2

粒剤の上に十分に水が
かかるように灌水して
ください。

ジアミド剤のプロ
FMCの卓効成分
シアントラニプロール
(通称・サイアジビル®)
0.5%配合！

野菜用殺虫剤

プリロツン® 粒剤 オメガ

powered by
CYAZYPYR®
ACTIVE INGREDIENT



幅広い適用害虫*4

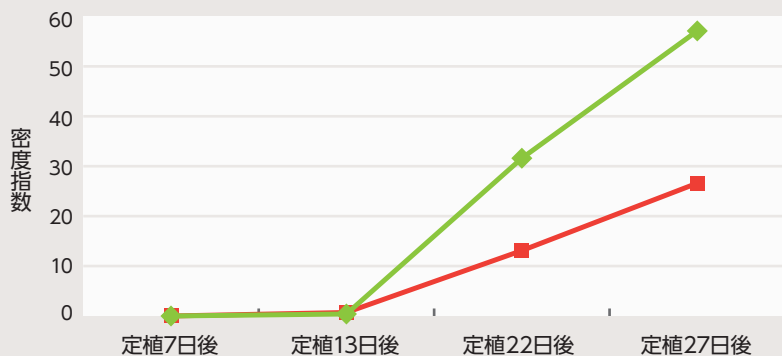


*1、2 撮影地：長野県塩尻市 *3 提供：柴尾学氏 *4 すいか、メロン以外の作物の適用害虫も含む

使いやすい、
さらさらの粒剤で、新登場！

- 特長 1** 薬剤のかかりにくい葉裏に潜む害虫にも、高い効果!
- 特長 2** 極微量の経口取り込みで、害虫の加害を即停止。3~4週間の長期残効。
- 特長 3** ジアミド剤のプロFMCの卓効成分シアントラニプロール(通称、サイアジピル®)0.5%配合!

アブラムシ類に対し、対照のA粒剤(ネオニコチノイド系)に優る効果!



■ プリロン®粒剤オメガ ▲ 対照A粒剤

2021年 静岡県農林技術研究所

【試験概要】◎作物:メロン◎品種:アールスフェボリット◎対象害虫:アブラムシ類(ワタアブラムシ)発生状況:甚発生(放虫)◎定植:9月8日◎栽植距離:畝間160cmx株間30cm 1条植え◎施設栽培(ビニールハウス)◎区制:1区 6.2㎡(1.6m×3.9m)13株 3連制◎処理年月日:2021年9月1日(定植7日前)◎処理方法:所定量の薬剤をポット(9cm径)に散粒し、処理後に軽く灌水した。◎調査方法:定植7、13、22、27日後に、各区8株について上、下位の2葉、計16葉に生息する虫数を有翅、無翅の別に調査した。処理27日後は、半葉を調査し、2倍して葉当たり換算した。◎密度指数=(処理区×日後の生息数/無処理区×日後の生息数)◎考察:処理27日後の無処理区において株が萎れる程の甚発生条件下での試験結果および判定である。プリロン®粒剤オメガは、対照のA粒剤に優る効果を示した。試験期間を通して薬害は認められなかった。

適用害虫と使用方法(適用表から一部抜粋)

2022年10月26日現在

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	シアントラニプロールを含む農業の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	2g/株	鉢上げ時	1回	育苗培土混和	4回以内 (定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)
	アザミウマ類、コナジラミ類		育苗期後半~定植時		株元散布	
トマト ミニトマト	コナジラミ類		鉢上げ時		育苗培土混和	
	ハモグリバエ類、アブラムシ類、アザミウマ類		育苗期後半~定植時		株元散布	
きゅうり	アブラムシ類		鉢上げ時		育苗培土混和	
	アザミウマ類、コナジラミ類、ハモグリバエ類		育苗期後半~定植時		株元散布	
なす	アブラムシ類、コナジラミ類、アザミウマ類、ハモグリバエ類		育苗期後半~定植時		株元散布	
すいか メロン	アブラムシ類					
だいこん	コナガ、アオムシ、アブラムシ類、ハイマダラノメイガ、カブラハバチ類、キスジノミハムシ、ネキリムシ類	6kg/10a	は種時		播溝土壌混和	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、は種後の処理は3回以内)
ねぎ	アザミウマ類、ハモグリバエ類		収穫前日まで	3回以内	株元散布	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の処理は3回以内(但し、株元灌水は1回以内))

その他の適用作物:キャベツ、はくさい、ブロッコリー、レタス、なばな類、畑わさび

△ 効果・薬害等の注意

- アルカリ性肥料との同時施用はさけてください。
- つまみ菜・間引き菜には使用しないでください。
- みずかけな(水掛菜)に使用する場合は、ほ場内に水がない状態で使用してください。また、使用后14日間は入水しないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

△ 安全使用上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した所に保管してください。

殺虫剤分類 28

殺虫剤抵抗性管理(IRM)

一般推奨事項:薬剤抵抗性の急速な発達を防ぐために、同一作用機構を持つ製剤を連続する複数の害虫世代間にわたって処理することは避けること。ブロック式ローテーション、即ち、プリロン®粒剤オメガまたは他のグループ28殺虫剤の「ブロック」の後に、異なる作用機構を持つ有効な殺虫剤処理の「ブロック」が続く形でローテーションを使用すること。作付期間(播種から収穫まで)を通して、適用されるすべての「グループ28使用ブロック」の合計暴露期間は作付期間の50%を超えてはならない。栽培期間の短い作物は1栽培期間を1ブロックとする。IPM手法の一環として防除体系に組み込むこと。

害虫の抵抗性、作用機構及びモニタリングに関する追加情報の参照サイト
(1) Insecticide Resistance Action Committee(IRAC)ウェブサイト <https://irac-online.org>
(2) <https://www.fmc-japan.com/trendinfo/irac>

- ラベルをよく読んでください。 ●記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

©2023 FMC Corporation. All Rights Reserved. FMC、FMCロゴ、®を付した商標は、FMC Corporationまたはその米国およびその他の国の子会社・関連会社の登録商標です。



日産化学株式会社

東京都中央区日本橋二丁目5番1号
ホームページ <https://www.nissan-agro.net/>
お客様窓口 TEL.03-4463-8271(9:00~17:30 土日祝日除く)

製品情報は
こちらから▶

